

中央公民館

佐倉地区の概要

佐倉地区は、京成電鉄軌道の北側の旧内郷村地区と南側の旧城下町地区とに大別される。内郷地区は、宮前地区で宅地開発が進み、その他の地区は田畑が広がっている。また、印旛沼を北にのぞみ、草ぶえの丘、市民の森、岩名運動公園などレジャー施設が数多く集まっている。京成電鉄とＪＲ総武本線、鹿島川にはさまれた旧城下町地区は、未だに城下町当時の面影が所々に残っており、国立歴史民俗博物館、佐倉城址、武家屋敷、順天堂記念館、平成１２年１１月一般公開された旧堀田邸など、歴史と文化の環境に恵まれている。また、城下町の面影を残す台地上に、市役所、裁判所、検察庁そして、市立図書館、市民体育館、市立美術館など公共施設が集中しており商店街も形成している。

公民館は、この台地の南側の低地に（財）印旛都市文化財センター、佐倉保育園と並んで建っている。付近には、平成１１年３月に建設された千葉県印旛合同庁舎がある。ＪＲ佐倉駅、京成佐倉駅ともに徒歩１５～２０分、最寄りバス停からも５分以上かかり、徒歩での来館者には多少不便である。佐倉地区の人口は平成２３年３月末日で、３０，３０１人で昨年に比べ１１８人の減となっているが、ここ１０年位はほぼ、横ばいの状況である。

管理・運営の部

1. 公民館運営計画

運営方針

歴史のまち佐倉の生活・文化の向上と、ふるさと佐倉のまちづくりに携わる市民の連帯意識を高めるため、だれもが学習しやすい公民館、集会活動のよりどころとなる公民館、親睦を深める場となる公民館として生涯学習のねらいを達成すべく、社会教育活動の中心施設としてその役割を果たすことに努める。

努力目標

利用者に対して、快い対応をするように努める。

より多くの人に利用してもらうよう施設設備の提供に工夫をすると共に、安全管理に努める。

各種の事業内容の充実に努める。

事業内容

1. 施設・備品の提供

地域住民各層の利用に応えるため、サービス業務の向上を図る。

(1) 施設の提供(団体、グループ単位)

利用時間 午前9時から午後9時30分まで。

ただし、月曜日と祝日は、午後5時00分まで。

休館日 第2・第4月曜日、及び年末・年始(12月28日～1月4日)。

(2) 備品の提供(団体、グループ単位)

館外貸与できるもの

机、椅子、拡声装置

2. 学級講座

学習機会の拡充と学習内容の充実に努めるため、学級講座の質的向上に努める。

幼児家庭教育学級、少年教育講座、成人教育講座、佐倉市民カレッジ等の実施。

3. 講演会事業

継続的に学習することができない人のために、学習機会の提供を図る。

4. 団体育成

公民館利用グループ・サークル活動の育成と支援を行う。子ども会活動への支援、高齢者ボランティアグループの支援を行う。

5. 文化援助事業

行政機関、文化団体の教育文化行事への協力を図る。

文化団体発表会、文化祭、美術展、音楽鑑賞会、映画観賞会への支援を行う。

6 . 広報事業

公民館の役割や各種文化行事等の情報提供。

中央公民館だよりの発行、各種館外催物、各種ポスター等の掲示、及びパンフレットの配布、公民館の役割や利用の仕方のパンフレット配布。

7 . 展示事業

ロビー、展示ホールの効果的活用を図る。

利用者作品展、各種展示会の開催。

8 . 図 書

図書館と連携の上、学習資料を収集し、活用する。

カレッジ図書コーナーの設置、家庭教育関係の資料の整備。

2 . 公民館利用状況

年度別利用状況

区 分	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
利用件数 (件)	6,588	6,730	6,962	7,105	6,965
利用人数 (人)	120,713	118,929	121,361	119,681	107,973
開館日数 (日)	333	334	333	333	333

事業の部

領域	事業名	対象	期間・回数	内容
家庭教育	2歳児親子あそび 教室	2歳児と親 27組	6/8・15・22・29・ 7/3・13・7/20 7回	遊びをとおして、幼児の自主性と豊かな心を育てあげることのできる親の態度を養う。
	親子体操教室	2・3歳児と親 24組	1/14	親と子が触れ合いを大切にしながら、子どもの様々な発達を伸ばしていくための講座。
	子育てホットクラブ	1歳児と親 16組	10月～11月 中止	仲間づくりをしながら「家庭のあり方・親の役割」を学び、家庭教育の向上を図る。
	お父さんと一緒に 食育講座	小学生とその父親 8組 (19名)	8/29	欠食や偏食などライフスタイルの変化による食生活の乱れが懸念される中、親子で正しい「食」の知識を身につけるとともに食の大切さを学ぶ。
	佐倉保育園 園庭開放事業	未就学児と保護者	通年毎週2回	佐倉保育園の園庭開放事業のためプレイルームを週に2回提供し、子育て支援を図る。
青少年教育	自然体感スクール	小学生3～6年生 9名	6/26・7/10・ 7/24・8/27・28・ 9/11・10/2・ 10/23 8回	印旛沼を利用したカヌープログラムを通して自然に触れ合う機会を提供する。ジュニアカヌースクール。
	チャレンジクッキング	小学生4・5・6年生 24名	8/10・24 2回	子どもたちに食の大切さを知ってもらおうと同時に自分で食事を作ることの喜びを知ってもらう。また、食から郷土の文化に触れてもらうことで、郷土を愛する心を育てる。
	子どもの居場所作り	小学生 延べ219名	7/22～8/25 14回	公民館を利用しているサークルが、小学生を対象に指導し、日頃の学習の成果を披露する。茶道・華道・調理など。
		延べ74名	7/21～8/31	夏休み期間、学習室2を自主学習の場として提供する。
	通学合宿	小学生4・5・6年生 20名	佐倉小 7/4～7/7	異年齢の子供たちが親元を離れ、共同生活することにより、自主性・協調性などを高める。また、地域の住人との交流も図り、明るい地域づくりを期待する。
佐倉地区 防犯パトロール	佐倉地区住民	年10回	青少年の健全育成及び佐倉地区の防犯を目的とし、青少年育成住民会議と合同で京成佐倉駅及びJR佐倉駅周辺の防犯パトロールを行う。	

青少年教育	親子映画会	小学生と親 延べ 535 名	8/20 12/22 3/29 中止	青少年対象の映像機材による地域の子どものための健全育成を図る。
	佐倉っ子塾共通講座 1 「夏休み子供水辺探検ツアー」	小学生 7 名 父兄 3 名	8/17	環境保全課、根郷公民館と共催。谷津の生きものや、湧き水・地下水の流れ方などの水の流れについての講義と野外観察を通じて佐倉の川や自然環境を学ぶ。
	佐倉っ子塾共通講座 2 「佐倉工芸くらぶ」	小学生と親 延べ 49 名	8/11・25 2 回	ペットボトルや空き缶といったリサイクル品を利用しておもちゃを作成し、自らが作りたいものを作り上げるといった自主性と創造力を育むと同時に資源の有効利用を通じて資源の大切さを学ぶ。
成人教育	佐倉学入門・専門講座 「佐倉・城下町 400 年と土井利勝」	成人 延べ 454 名	入門 4/11・18 専門 5/29・6/6・19	「これから佐倉の歴史を学んでみよう」という方を対象に、今から 400 年前の佐倉と初代佐倉城主である土井利勝の人物象について学ぶ。
	佐倉学専門講座 「古今佐倉真佐子にみる佐倉城」	成人 延べ 68 名	11/28	約 300 年前に佐倉の様子を絵図に添えて書きつづられた「古今佐倉真佐子」から、当時の佐倉城について学ぶ。
	佐倉学専門講座 「印旛沼の自然」	成人 延べ 94 名	1/22・29 計 2 回	佐倉市のシンボルでもある印旛沼の歴史について、周辺の人々の暮らしや印旛沼の地質や地形、水の循環について学ぶ。
	印旛沼公開講座 「温故知新」 (共催事業)	成人	8/28・9/25・ 10/23・11/27	かけがえのない豊かな自然環境を次の世代に引き継いでいくために、佐倉市の自然環境の象徴である印旛沼について学ぶ。印旛沼環境基金との共催事業。
	パソコン広場	パソコン初心者 成人 延べ 218 名	4 月～3 月 毎週月～金曜日	パソコンに実際に触れ、操作することによって、パソコンとはどのようなものであるかを体験する。
	パソコンイベント	パソコン初心者 成人 延べ 57 名	11/29 午前・午後 2 回	初心者を対象に、パソコンに興味を持ってもらうと同時に、カレッジ卒業生をボランティア講師として活用する。
	映像教材貸出	登録団体	随時	保有教材 16 ミリフィルム 459 本 ビデオ教材 1847 本
佐倉学体験講座 「佐倉の民話を語るボランティア団体派遣事業」	小学生 3～6 年生 延べ 1,578 名	13 回	佐倉に伝わる民話を題材とした読み聞かせ講座を行う、市民カレッジ卒業生グループを主体とした出前講座。	

高齢者教育	佐倉市民カレッジ 《であい課程》 第1学年・第2学年 2年間の学習コース 《専攻課程》 第3学年・第4学年 2年間の学習コース (以下の4コース) あったか福祉コース ふるさと歴史コース さわやか情報コース ゆっくり元気コース	第1学年		高齢社会のなかで、市民が健康で生きがいを持ち、地域と連携をもちながら、住みよいまちづくりを考え実践をととした生涯学習の場とする。 「であい課程」では、主に一般教養科目を学ぶ。その領域は、健康・家庭・生きがい・経済・佐倉の歴史・環境・市政・福祉・国際理解・仲間づくり等の学習を行う。特に1年生は、学ぶ意義から入り、仲間づくりに重点を置いた。2年生は、まちづくりを重点に考え、実践した。 「専攻課程」では、「であい課程」を終了後、更に学びたい人のため専門別に学習をした。卒業後の実践活動に役立たせるために、体験学習、話し合い、発表等の学習方法を取り入れた。 公開講座、ミニセミナー等を拡充し、一般への学習機会の提供を図った。
		1組 50名 2組 50名	5月～2月 36回	
		第2学年		
		1組 49名 2組 46名	5月～2月 36回	
		第3学年		
		福祉コース 23名 歴史コース 26名 情報コース 20名 元気コース 26名	5月～2月 20回	
第4学年				
福祉コース 22名 歴史コース 25名 情報コース 17名 元気コース 24名	5月～2月 20回			
団体育成	グループ懇談会	利用団体代表者 195団体	4/19	利用者団体との意見交換をし交流を図り、公民館活動及び利用のあり方について懇談をした。
	佐倉地区子ども会 育成会連絡協議会	加盟子ども会 8団体	随時	子ども会の育成者を養成し、子ども会同士の交流を図る。市子連研修会に参加した。
	調理室利用者懇談会	利用団体代表者 16団体	6/14・12/13 2回	調理室の効果的利用方法を考えるとともに、懇談を通して利用サークル間の交流を図る。
	16ミリ映写機 操作講習	社会教育団体 延べ5名	6/19・3/5	視聴覚機器の操作を習得する機会を提供し、映像機材の活用を図る。
	16ミリ映写機 点検事業	16ミリ映写機保有 施設9台	5/28	各施設所有の16ミリ映写機を老朽化に伴う上映使用時のトラブル防止のため、一括して点検を行う。
	視聴覚教育パソコン研修	14名(佐倉市教職員 2名)	7/22・23 印西市立中央 公民館	教職員に対してパソコンを利用した視聴覚教育(プレゼンテーション)を行えるように、パワーポイントの講習会を郡共催実施する。
広報活動	中央公民館だより	佐倉地区	1回 500部	公民館の事業紹介や募集、地域の情報を提供した。
	「なかま」	成人	毎月1回 各1,400部	市内高齢者から広く原稿を募集し、意見交換と情報提供を行った。
	ホームページ	市民	随時	佐倉市立中央公民館の主催事業等を掲載して、情報の提供をする。

1. 家庭教育事業

2 歳児親子あそび教室

開設趣旨 幼児にとって遊びは、生活上なくてはならない重要な学習であり、遊びを工夫し豊かにすることは、幼児の心と身体の成長に大切なことである。本講座は、幼児の心の成長と豊かな感受性の育成を担う、親と子のための学習講座として開設する。

対象・人数 2歳児とその親 27組

開設期間 平成22年6月8日～平成22年7月20日

午前10時～11時30分 全7回

- 学習目標
1. 身体で手本を示す親になりましょう。
 2. 学んだことを生活の中で活かす努力をしましょう。
 3. 子供の豊かな創造性を大切に、友達づくりや他の親子との交流に努力しましょう。

プログラム

回	月日(曜日)	学習テーマ	学習内容	講師
1	6月8日(火)	お友達になろう	自己紹介・リズム遊び エプロンシアター	川口はぎ江
2	6月15日(火)	粘土あそび	小麦粉をこねこねして 粘土づくり	川口はぎ江
3	6月22日(火)	読み聞かせの楽しさ	絵本の読み聞かせと手遊び	小廣早苗
4	6月29日(火)	楽しい工作	身近にあるもので おもちゃ作り	川口はぎ江
5	7月3日(土)	家族で遊ぼう	さくら庭園へお散歩して 戸外で体を動かす遊び	川口はぎ江
6	7月13日(火)	絵の具で遊ぼう	手がた押しやスポンジを使って 大きな絵をつくる	川口はぎ江
7	7月20日(火)	運動会	色々な道具を使って運動会	川口はぎ江

講座を終えて

最初は、初めて会う他の参加者の間で戸惑っていた子どもたちも、講座の回数を重ねるごとに慣れ、遊びへの参加も積極的になり、その中で友達との関わり方など、集団生活の中で必要となる基本的な知識について、実体験を通して学ぶことができたようだ。

小麦粉粘土づくりや手がた押しでつくる絵では、粘土や絵の具の感触を喜ぶ子や、手が汚れることに戸惑う子など、子どもによって個性的な反応がある。保護者からは、家ではなかなかできない遊びなので、親子共々とても楽しめたとの声があった。さくら庭園までのお散歩や運動会では、子どもが外を歩いたり動きまわる様子から、改めて自分の子の体力を知り、楽しい工作では牛乳パック一本で様々な遊びができることを発見するなど、お母さんも7回の講座で様々なことを学んだようだ。

この講座を実施することで、親自身が遊びかたを工夫する中で子育てを楽しみ、子どもとじっくり触れ合うことの大切さに気付くための契機となれたのではないだろうか。

親子体操教室

開設趣旨 2歳児の大きな特徴は、運動能力が飛躍的に発達することです。走る、飛び降りる、両足で跳ねるなど主に足を使った運動能力が目立って発達します。そして運動能力に知的な発達が加わり、様々な道具を想像力豊かに使いこなせるようになります。本講座は、親と子が触れ合いを大切にしながら、子どもの様々な発育を伸ばしていく

ための学習講座です。

対象・人数 2・3歳児とその親 24組

開設期間 平成23年1月14日

午前10時～11時30分 全1回

学習目標 1. 身体で手本を示す親になりましょう。

2. 学んだことを生活の中で活かす努力をしましょう。

3. 子供の豊かな創造性を大切に、友達づくりや他の親子との交流に努力しましょう。

プログラム

回	月日(曜日)	学習内容	講師
1	1月14日(金)	体操、くっつき鬼、タオルやフラフープを使った運動	伊藤友香

講座を終えて

年明けの1月中旬ということで、お正月明け早々の日程から、参加者が少ないのではないかと懸念があったが、募集してみると24組48名という多数の参加があった。また、当日は活発で運動の好きな子供たちが多く、大変にぎやかな講座となった。

最初にウォーミングアップの運動をし、くっつき鬼で心身をほぐした後、タオルやフラフープ、ボールなどを使った様々な運動を行った。フラフープという種類の道具だけでも、普通に体に沿って回すだけの使用法のみではなく、床に並べて片足ケンケンで輪の中を跳んで進むことなど、いくつもの使用法があった。たくさんの輪を連ねて電車ごっこ遊びなど、様々な遊び方が紹介され、男の子も女の子も飽きずに楽しめる内容となっていた。

この講座を実施することで、親子が触れ合う中で子育てを楽しみ、子どもとじっくり向き合うことの大切さに気付くことができれば良いと思う。

お父さんと一緒に食育講座

開設趣旨 欠食や偏食などライフスタイルの変化による食生活の乱れが子どもたちの健康に及ぼす害として懸念される中で、親子で正しい「食」の知識を身につけ、「食」の楽しさ、大切さを学ぶ。

また、父親の育児・家事参加を促すことにより、男女平等参画の推進と、家庭教育の充実を図る。

対象・人数 小学生とその父親 8組(19名)

開設期間 平成22年8月29日(日)

午前10時～14時00分

学習目標 1. 食材について知る。

2. 食の機能と食文化について学ぶ。

3. 父子の交流を深める。

講師 奥平英明

会場 中央公民館 調理室

学習内容 調理実習

メニュー 米粉ピザ、フルーツ寒天

講座を終えて

今年度からは男女平等参画の観点を取り入れ、対象をお父さんと子供に限定して募集した食育講座だが、夏休み最後の日曜日ということもあって欠席無しの8組19名全員の参加となった。

この講座は調理実習をするだけでなく、実習を通して、栄養・衛生的な調理方法・食事の際のルール等

を学び、「食」についての理解を深めることを目的としている。また今年度は、佐倉産の米粉や、佐倉産の野菜を使ったピザをメニューに採用するなど、食料自給率についても考えるきっかけをつくった。

参加した父親からは「夏休みの良い思い出になった」「親子で一緒に運動したり、お菓子作りをする教室なども開いて欲しい」といった感想が寄せられ、子どもたちからも「おいしかった」「はじめてピザを作ったから、あまりうまくできないと思ったけど、上手にできた」「料理ができて楽しかった」などの感想が寄せられた。

しかしその一方で、「もう何品か作ってみたかった」「もう少し子どもたちが、背伸びをしてチャレンジできる内容であっても良かった」という感想をもつ保護者も見受けられた。今回は、参加対象を父親と小学生に限ることから、親子ともに調理に対して不慣れな参加者が集まるという点が懸念されたため、複数の調理を同時に進行することが難しいのではないかと思われたので、フルーツ寒天については、講師とアシスタントで作って冷やしておき、米粉ピザのみ参加者に調理してもらおうという形をとった。次に行う時には、もう少し難易度を上げて、二種類の皿数を同時に調理してもらっても大丈夫なように感じた。

講座の最後は講師から、食事した後は、自分の食器をきちんと衛生的に後始末することが示され、夏休み最後の講座はなごやかな雰囲気の中、終了した。

2. 少年教育事業

ジュニアカヌースクール

開設趣旨 カヌーを体験することにより、地元の印旛沼に親しむとともに、年齢の異なる仲間との団体活動をとおして社会性・自発性の涵養を図る。

対 象 小学生3年生～6年生・中学生 9人

開催期間 平成22年6月26日(土)から10月23日(土) 全8回
午前10時から午後1時まで

指 導 者 佐倉市カヌー協会

学習プログラム

回	日 時	テ ー マ	学 習 内 容	指 導 者
1	6月26日(土)	開講式・実習	講義と会場見学・実技	佐倉市カヌー協会
2	7月10日(土)	実習	基本技術の習得	〃
3	7月24日(土)	〃	〃	〃
4	8月27日(土)	〃	〃	〃
5	8月28日(日)	〃	〃	〃
6	9月11日(土)	〃	〃	〃
7	10月 2日(土)	見学	国体の見学	〃
8	10月23日(土)	実習	基本技術の習得	〃

講座を終えて

基本的な技能の習得を中心としたスクールを実施したが、過去のスクール生が指導を補助し参加者にマン・ツー・マンのように教室をサポートしてくれた成果として、早くカヌーを親しめるようになり、ボールを使ったり、レースをしたり、より高度な技能を身につけることができた。

練習場所は佐倉市カヌー協会が普段の練習場所としている印旛沼中央水路であり、子どもたちはカヌーの体験を通してふるさと佐倉の自然に親しんでいる。ジュニアカヌースクール終了後も引き続き佐倉市カヌー協会のスクールで練習している児童もいる。

チャレンジクッキング

開設趣旨 普段なにげなく口にしている食事。しかし人にとって食は大切な生活の営みである。

講座を通して子どもたちに食の大切さを知ってもらうとともに、自分で食事をつくることの喜びを感じてもらうことを目的として講座開設する。

対象・人数 小学校4・5・6年生 24人
 開設期間 平成22年8月10日(火)・8月24日(火)
 午前9時～12時30分 全2回
 学習目標 1.自分で作ったものを食べる喜びを知る。
 2.学んだことを生活の中で活かす努力をする。

プログラム

回	日	時	学 習 内 容	講 師	会 場
1	8月10日		肉そば フルーツゼリー	小林由喜子	中央公民館 調理室
2	8月24日		フレンチトースト ロールキャベツ ミルクくず餅	〃	中央公民館 調理室

講座を終えて

食の楽しさ・大切さを学んでもらおうと開催したこの講座も、今年で7年目を迎え、佐倉地区の小学生に定着した講座となってきた。

講座では、初めて調理する子どもでも、簡単に作れておいしいメニューの調理実習を行いながら、食事の大切さ・料理をする際のルール・箸の使い方などを学習した。

参加した子どもたちからのアンケートでは、「たのしかったし、べんきょうになった」「料理をつくる時に、むずかしそうと思いましたが、かんたんにできたので、びっくりしました。」「家に持って帰ったら、家族によるこばれました！家で肉そばを作ったら、おいしい！と言われました。うれしかったです。」「自分で作ったものを食べるっていうのが、うれしかった。」等の感想をもらった。

特に最終日のミルクくず餅では、餅状にだんだん固くなっていく材料を、鍋の中で焦がさないように混ぜつづけるという作業が、子供たちにとっては、かなり腕の力を必要とする内容であったので、自分自身の手でがんばって料理をつくることに対する、子どもたちの意気込みと喜びが感じられ、とても充実した講座となった。

子どもの居場所作り

開設趣旨 放課後の子どもたちの居場所を公民館の中に整備し、公民館利用グループの学習に子どもを参加させることで、公民館利用グループの学習の成果を子どもたちに提供し、子どもたちと地域グループの交流を目指す「子どもの居場所作り」を開設した。

対 象 小学生(主に佐倉地区4小学校)

開催期間 小学生の夏休み期間

学習プログラム

教室名	日程	人数	参加グループ名
いけばなきょうしつ	7/22・27・29	47	佐倉市華道連盟
かげえきょうしつ	7/27	15	影絵塾9
さどうきょうしつ	7/28・8/4	16	松葉会
おりがみ作って楽しくあそぼう	7/30	17	佐倉生涯学習を進める会

そばうち体験	8/2(AM・PM)	19	そば打ち愛好会
なかよしクッキング	8/3	17	ヘルスマイト
なつやすみお料理きょうしつ	8/6	29	よもぎ
紙ヒコーキみんなでとばそう	8/7	13	とばそう会
工芸くらぶ	8/11・8/25	46	さくらっこ工芸

事業を終えて

平成17年度から始めた事業である。公民館利用グループに協力を募り、9団体の公民館利用グループに協力を得て実施した。今年度は、全体で延べ219名の小学生の参加があった。参加者数については、特に人気のある教室に対し、募集した人数を上回る申し込みが集中しており、一人でいくつもの教室に参加した児童もいた。参加者を決定する抽選の際には、特定の児童に偏ることがなく、なるべく多くの子どもたちに対して、参加する機会が均等に与えられるように配慮した。

事業の意義として、今日の少子化の流れの中で、地域の様々な人々と関わりを持つことにより、子どもたちの社会性とコミュニケーション能力を育み得る「子どもの居場所作り」は、たいへん貴重な機会と捉えることができる。また、子どもたちの受け入れ側である公民館利用グループにとっても、他世代との交流は、気持ちを若返らせ、生き生きと活動することのできる新鮮な体験となった。実際に、公民館利用グループ側の参加者からは、「子どもたちの嬉しそうな様子を見てみると、また来年も来てほしい、自分たちも、また次に向けて頑張ろうという気持ちになる。」という言葉をいただいている。

多世代交流の場として、地域に開かれた公民館の中の子供部屋として、長く続けていきたい事業のひとつである。

通学合宿

開設趣旨 子どもたちが生活体験をすることにより、協調性、自主性を育むとともに両親の大切さを感じる機会を提供する。また、両親には、子ども離れることで日頃の親子関係を考える機会を提供する。そして、スタッフに地域の人材を入れることで、地域で子どもを育てる意識を啓発する。

対象・人数 佐倉小児童20名

期間・回数 平成22年7月4日(日)～平成22年7月7日(水) 3泊4日

学習目的

1. お互いの立場や役割を理解し、協力し合う心を育む。
2. 日常生活に必要な生活技能を習得する。
3. 子どもたちの自律と自立による生きる力 “社会性・責任感・協調性・他人を思いやるやさしさ・規律意識。忍耐力を育む。

指導者 地域人材 佐倉市民カレッジ生 公民館職員

プログラム

月日(曜日)	学 習 内 容	会 場	参加者数
7月4日(日)～ 7月7日(水)	開校式 ・献立決め・買物・朝食・夕食(調理、後片付け)・洗濯 ・入浴(もらい湯)・清掃 ・閉校式	中央公民館	佐倉小児童20名、もらい湯協力9軒、市民カレッジボランティア14名、市民カレッジOBボランティア3名、大学生ボランティア3名

講座を終えて

佐倉小学校の通学合宿は、参加児童21名募集のところ29名の申込があり、佐倉小学校関係者から構成される検討会で抽選会が行われました。また、通学合宿中はボランティアとして多くの市民カレッジ生が子どもたちに料理などの生活体験をサポートしました。料理は、献立決めから班ごとに試行錯誤して、約30人分の朝食・夕食の買い物から調理、盛付け、片付けまでを行ったことで、親の大切さを感じたとの児童の声を多く耳にしました。もらい湯については、ご協力いただいた9軒の地域の方々との交流があり、最終日には児童からお礼の手紙が読み上げられました。その他、自由時間に「佐倉っ子工芸クラブ」による手作り飛行機教室が行われ、自分で作った飛行機を飛ばして遊びました。また、児童と年齢の近い大学生ボランティア3名の存在は大きく、合宿終了後帰る際名残惜しそうに交流している姿がありました。

親元から離れて共同生活を行い、上級生や下級生、ボランティアの方たちと触れ合うことにより、多くの子どもたちが自から進んで行動する力を身に付けることができたので、今後も佐倉小学校と佐倉東小学校を1年交代で続けていく予定です。

3 . 成人教育事業

佐倉学入門・専門講座「佐倉・城下町400年と土井利勝」

開設趣旨

「佐倉の歴史に興味があるけれども、きっかけがない」「これから佐倉の歴史を学んでみよう」という方々を対象に、佐倉城（鹿島城）を築城し、今も残る城下町の基礎を築いた「土井利勝」を中心に学習し、佐倉地区を散策しながら江戸時代の佐倉を学習することによって、郷土策の創生につなげることを目的とします。

対象・人数 一般（入門講座は全2回参加できるかた）入門講座：50名 専門講座：100名

期間・回数 入門講座...講義：平成23年4月11日（土）・散策：4月18日（土） 全2回
 専門講座...講義：平成23年5月29日（土）～6月19日（土） 全3回

学習目的 1．なぜ歴史のまち佐倉といわれているのか、その一つである城下町佐倉を知ることから学び始める。
 2．郷土愛を育み、ふるさと佐倉創生への意欲を養う。

指導者 講義：郷土史家 山倉洋一 散策：NPO法人佐倉一里塚町並み観光ガイド

プログラム

入門講座

回	月日(曜日)	学 習 テ ー マ	学 習 内 容	指 導 者	参加者数
1	4月11日 (土)	土井利勝とその時代を 探る	講義 土井利勝とその時代	郷土史家 山倉洋一	52名
2	4月17日 (土)	佐倉の殿様たちとその 時代を歩く - 佐倉地区 - (1組目)	散策 城下町地区の寺社(教 安寺・松林寺など)・旧堀田 邸・佐倉城址公園ほか	NPO法人 佐倉一里塚 町並み観光 ガイド	荒天の為 中止
3	4月18日 (日)	佐倉の殿様たちとその 時代を歩く - 佐倉地区 - (2組目)	散策 城下町地区の寺社(教 安寺・松林寺など)・旧堀田 邸・佐倉城址公園ほか	NPO法人 佐倉一里塚 町並み観光 ガイド	28名

専門講座

回	月日(曜日)	学 習 テ ー マ	学 習 内 容	指 導 者	参加者数
1	5月29日 (土)	土井利勝とその時代を 探る	講義 土井利勝とその時代	郷土史家 山倉洋一	125名
2	6月6日 (日)	徳川三代の智将・幕閣 の第一人者	講義 土井利勝の人柄と政 治的手腕	郷土史家 山倉洋一	117名
3	6月19日 (土)	土井利勝と房総歴史街 道	講義 土井利勝と房総歴史 街道 - 今に伝わる利勝ゆか りの史蹟と遺徳 -	郷土史家 山倉洋一	132名

講座を終えて

平成21年度より「土井利勝」についての講座を開催していますが、定員を大幅に超える申し込みをいただき、平成22年度に追加で入門講座を行いました。また、入門講座に引き続き専門講座を開催したところ、多数の申込をいただきました。平成21年度から講師をお願いしている郷土史家の山倉さんは、研究熱心で資料も豊富なこともあり、講義についてとてもよかったという参加者の声をきくことができました。「佐倉・城下町400年」については平成29年度まで続く記念事業なので、今後取り上げる内容について検討していく必要があると思います。

佐倉・城下町400年記念事業「古今佐倉真佐子にみる佐倉城」

開設趣旨

「これから佐倉を学んでみたい」という方々を対象に、約300年前に佐倉の様子を絵図に添えて書きつづられた「古今佐倉真佐子」から、当時の佐倉城について学習し、郷土佐倉の創生につなげることを目的とします。

対象・人数 一般 100名

期間・回数 平成23年11月28日(日)

指導者 元佐倉市文化財審議会委員

プログラム

回	月日(曜日)	学 習 テ ー マ	学 習 内 容	指 導 者	参加者数
1	11月28日 (日)	古今佐倉真佐子から 佐倉城を学ぶ	講義 「古今佐倉真佐子」に みる佐倉城	元佐倉市文 化財審議会 委員	68名

講座を終えて

「古今佐倉真佐子」については佐倉学の事業としてこれまでも取り上げてきた内容ですが、指導者である元佐倉市文化財審議会委員の講義はとても解りやすく、参加者からもとても好評でした。また、今回は講師の都合により1回のみ講座で、特に「佐倉城」について学びましたが、1回2時間の講義では物足りないという参加者の声を多く頂戴しました。今後は複数回での講義を検討していく必要があると感じました。

佐倉学専門講座2 ～印旛沼の自然～

開設趣旨 かけがえのない豊かな自然環境を次の世代に引き継いでいくために、佐倉市の自然環境の象徴である「印旛沼」について学ぶものです。「佐倉の自然について学んでみたい」という方々を対象に、佐倉市の自然を学習し郷土佐倉の創生につなげることを目的とします。

対象・人数 一般成人 90名

期間・回数 平成23年1月22日・平成23年1月29日 全2回(土曜日)

学習目標

1. 佐倉市のシンボルでもある印旛沼の自然と県内の湧水について学習します。
2. 郷土愛を育み、ふるさと佐倉創生への意欲を養う。

学習プログラム

回数	月日(曜日) 時間	学習内容	講師
1	1月22日(土) 10:00 ~ 正午	手繰川と印旛沼の生き物	NPO法人水環境研究所
2	1月29日(土) 10:00 ~ 正午	千葉県の湧水	NPO法人水環境研究所

事業を終えて

本事業は、「佐倉学専門講座」の中の1講座として開講した。

講師は、NPO法人水環境研究所にお願いした。各分野の専門職員による講義により、「印旛沼の自然」という講座で、印旛沼に流入する一級河川である手繰川と沼の生き物たち、千葉県内各地にある湧水の研究成果という分野の講義であった。講義終了後も多くの質疑があり、参加者の関心の高さが伺えた。

今後は、佐倉の自然科学及び文化歴史に関する学習の継続により、市民による「ふるさと佐倉」の創生に対する積極的な活動につながっていくことを期待したい。

印旛沼公開講座「温故知新」(共催事業)

開設趣旨 かけがえのない豊かな自然環境を次の世代に引き継いでいくために、佐倉市の自然環境の象徴である「印旛沼」について学ぶものです。「佐倉の自然について学んでみたい」という方々を対象に、佐倉市の自然を学習し郷土佐倉の創生につなげることを目的にします。

対象・人数 一般成人 360名

期間・回数 平成22年8月28日～平成22年11月27日 全4回(土曜日)

学習目標

1. 佐倉市のシンボルでもある印旛沼の歴史、自然環境等を学習します。
2. 郷土愛を育み、ふるさと佐倉創生への意欲を養います。

学習プログラム

回数	月日(曜日) 時間	学習内容	講師
1	8月28日(土) 13:30 ~ 15:30	印旛沼の水利用・水質の状況	財団法人印旛沼環境基金 本橋 敬之助
2	9月25日(土) 13:30 ~ 15:30	水供給の源から	独立法人水試験開発機構千葉 用水管理所 福島 玲
3	10月23日(土) 13:30 ~ 15:30	農業用水として	印旛沼土地改良区 高橋 修
4	11月27日(土) 13:30 ~ 15:30	漁場として	千葉水産総合研究センター 内水面水産研究所 河津浩二

パソコン広場・パソコンイベント

開設主旨 パソコン初心者程度のかたが自由にパソコンに触れることができるように、パソコン広場として場所とパソコン機器を提供する。さらに、市民カレッジ卒業生からなるパソコンスタッフがパソコン広場の企画・運営にあたる。

対象 一般成人

開設日時 自由利用……………毎週月～金曜日(休館・保守点検日を除く)の午前10時～午後4時に自由に利用できる
 スタッフ指導……………隔週の火曜日と金曜日(各2回)
 パソコンスタッフが指導にあたる
 パソコンイベント…パソコンスタッフが企画し、秋に開催

パソコン広場利用人数

内 容	日 時	利用人数(延べ)	パソコンスタッフ
自由利用	毎週火曜日から金曜日 午前10時～午後4時	99人	
スタッフ指導	隔週の火曜日と金曜日	(自由利用者と重複) 119人	市民カレッジ卒業生 14期・15期 各10人
パソコンイベント	平成21年11月29日(日) 午前9時40分～午後2時40分	57人	市民カレッジ卒業生 14期・15期 31人
合 計		435人	

事業を終えて

- ・パソコン広場スタッフについて、20年度までは佐倉市民カレッジ情報コース卒業生の3期体制で実施していたが、利用者の減少、パソコンが古い機種である、利用者の学習要求の高度化などの理由から、21年度よりパソコンスタッフは2期生として実施した。
- ・昨年度と比較すると利用者は減少したが、引き続き利用者からの継続希望は多く、リピーターが多いことも傾向としてあげられる。
- ・パソコンイベントについては、希望者の多い「ワードで年賀状を作ろう!」を4年連続で実施した。参加者には大変好評であり、機種の変化に伴い、Windows Vista、XPとそれぞれ参加者のニーズに即した形で実施できた。2つの機種、ワードの2003、2007というバージョンの違うソフトで対応ということもあり、多少の難しさはあったが、準備期間を長く設け、担当者ごとに役割を明確にしたため、当日は混乱もなく実施できた。

佐倉学体験講座 ～佐倉の民話を語るボランティア団体派遣事業～

開設趣旨 佐倉学関連事業の一つとして、市内小学校、教育センター、中央公民館が連携して、子どもたちに「佐倉学」を総合的に学べる場を提供するとともに、佐倉学の普及を図るため、佐倉市民カレッジ卒業生で結成された、佐倉の民話を語るボランティア団体「さくらっ古」を市内小学校児童を対象に派遣し、佐倉に伝わる民話を語り継ぎ、郷土愛を育むことを目的とする。

対象・人数 市内小学生 1年生～6年生

期間・回数 平成22年6月25日～平成23年2月25日 全13回 延べ1,578人

民話の題名 姥が池物語 三つざきにされた竜神様 八幡様の白馬 親はうま酒 子は清水
 たんたん山 佐倉宗吾物語 松虫姫 印旛の鬼童丸 はっちむぎつね
 おたつのほこら 印旛沼の主 てんぐにさそわれ京見物 ほか

学習プログラム

回数	月日(曜日)	テ - マ	学校名	対象・人数
1	6月25日(金) 10:15～11:15	ぴょんどこしよ 八幡様の白馬 はっちむぎつね ほか	王子台小学校	1年生:65名 3～6年生:100名 2年生:77名

2	7月9日(金) 9:25 ~ 10:05	たんたん山 円照寺の白へび 印旛の鬼童丸 ほか	根郷小学校	3年生 : 109名
3	7月16日(金) 10:35 ~ 11:20	親はうま酒、子は清水 円照寺の白へび おしどりの悲しみ ほか	寺崎小学校	4年生 : 69名
4	10月22日(金) 8:25 ~ 11:25	ききみみずきん 松虫姫 八本目の足 ほか	小竹小学校	3年生 : 52名 1・2年生 : 76名 4年生 : 49名
5	11月26日(金) 10:25 ~ 11:10	はっちむぎつね 阿辰の祠 おしどりの悲しみ ほか	上志津小学校	3年生 : 90名
6	12月10日(金) 9:30 ~ 12:15	印旛沼の主 たんもの地蔵 雨ごいのト童 ほか	印南小学校	3・4年生 : 70名 1・2年生 : 69名 5・6年生 : 80名
7	12月17日(金) 10:00 ~ 10:45	宝の原 雨ごいのト童 一休さん ほか	臼井小学校	2年生 : 66名
8	1月8日(土) 11:20 ~ 12:05	てんぐにさそわれ京見物 たんたん山 おしどりの悲しみ ほか	旧堀田邸	20名
9	1月21日(金) 9:30 ~ 10:15	宝の原 たんものじぞう たんたん山 ほか	西志津小学校	2年生 : 150名
10	1月26日(水) 10:00 ~ 12:15	お正月遊び 羽つき、けん玉、めんこ、 こま、お手玉 ほか	印南小学校	1年生 : 35名
11	1月27日(木) 10:40 ~ 11:25	はっちむぎつね たんものじぞう 八幡様の白馬 ほか	青菅小学校	2年生 : 60名 3年生 : 60名
12	1月28日(金) 9:30 ~ 11:20	一休さん 雪女 松虫姫 ほか	染井野小学校	1年生 : 30名 2年生 : 60名 3年生 : 30名 4年生 : 60名
13	2月25日(金) 9:25 ~ 11:25	はっちむぎつね 姥が池物語 てんぐにさそわれ京見物 ほか	南志津小学校	1年生 : 52名 2年生 : 50名 3年生 : 36名

事業を終えて

本事業は、「佐倉学講座」の中の1講座として開講しました。

佐倉市教育センターの協力を仰ぎ、佐倉市小学校長会にて趣旨を説明し、各学校長より依頼を受ける形で実施しました。

年回9回開催の募集を行ったところ、昨年度に引き続き予想を大きく超える依頼がありました。

開催にあたっては、小学校側の都合に合わせて、クラス単位、学年単位、学年を超えた合同授業と、様々な形態で実施し、合計で1,578人の生徒に実施することができました。

実施後は、担任の先生にアンケートの記入をお願いし、参加児童の理解度、成果、感想についてご回答いただきました。アンケートの内容はすべての回を通して満足度が高く、各地域に伝わるお話は特に好評で、語り手の独特な言い回しや、大きなアクションを使った話し方などに高評を得ました。また、話の合間にコマ回しや手遊び歌など、昔の遊びを交えて実施したので、長い時間でも子供たちの興味が持続できたとの声も多くあがりました。

なお、ボランティアとして協力していただいている「さくらっ古」の方々も、子どもたちとの交流、先生方との意見交換を通じて、とても有意義な時間を過ごさせていただいているといった感想をお持ちで、学校側と相互に良い関係が築き上げられていると実感しています。

今後、さらに佐倉の歴史学習を続けて、ふるさと佐倉の創生に対する積極的な活動につながっていくことを期待します。

4. 高齢者教育事業

四年制高齢者大学校「佐倉市民カレッジ」

1. 開設までの経緯

中央公民館では、年々増加する高齢者が、社会の変化とともに歩み、自己の能力を伸ばし社会活動へ参加し充実した生き方ができるよう、昭和53年5月に「佐倉市高齢者短期大学校」(以下短大)を開設した。

短大が数年経過すると学生の学習意欲が高まり、卒業した学生からさらに学びたいという希望が生まれ、短大6期生より自主的に2年間の学習を行う「生きがい学園」が誕生した。

また、短大生たちの中で4年間続けて学ぶことの意義が認識され、短大の学習内容のひとつである「市長への提言」にて「高齢者のための四年制の大学校の設置」という提言がなされた。そして、公民館運営審議会委員、福祉関係有識者、短大卒業生を含めた「高齢者の望ましい姿を考える会」が発足し、四年制大学校の設置の概要と方向性として、地域活動の実践、郷土佐倉を愛する心の育成、40歳以上への学習機会の提供などが示された。

このような経緯を踏まえて、公民館棟に接続して四年制大学校の専用校舎を建設し、「佐倉市民カレッジ」という名称のもと平成4年5月に開設した。初年度は40歳以上60歳未満の20名を含む第1学年100名、短大の卒業生が編入した第3学年96名の2つの学年によりスタートした。そして、平成5年度より新1年生と短大の編入生である新3年生を含めた4学年が揃い、本格的な四年制大学校としての歩みを始めた。

2. 開設の趣旨

佐倉市民カレッジは、高齢化社会の中で、市民が健康で生きがいをもち、地域との連携をもちながら住みよいまちづくりを考え、実践をとおして生涯学習のできる場となるよう開設されている。

また、佐倉市民カレッジ(以下カレッジ)では高齢者のみならず、高齢準備期である40歳代からの人にも学習の機会を提供し、高齢者と互いに学び、支え合うことを大切なねらいとしている。

3. 入学対象・定員

(1) 入学対象者

佐倉市に在住する市民で、健康で継続して学習できる人
積極的に自主学習ができる人

卒業後は地域活動に積極的に参加できる人

(2) 定員：100名(年齢別募集)

各学年の年齢構成は以下のとおり

60歳以上 80名

40歳から59歳まで 20名

なお、平成22年度の応募・入学状況は以下のとおりである。

募集学年	募 集 定 員	応 募 数	入 学 者 数
第1学年	60歳以上 80名	159名	93名
	40歳から59歳まで 20名	7名	7名
	計 100名	計 166名	計 100名

平成22年度の学生数

学 年	クラス コース	入学・進級者		修了・卒業者	
		人 数	小 計	人 数	小 計
第1学年	1 組	50	100	45	94
	2 組	50		49	
第2学年	1 組	49	95	47	91
	2 組	46		44	
第3学年	福 祉	23	95	23	93
	歴 史	26		25	
	情 報	20		19	
	元 気	26		26	
第4学年	福 祉	22	88	21	86
	歴 史	25		24	
	情 報	17		17	
	元 気	24		24	
計			378		364

4. 佐倉市民カレッジ運営委員会

カレッジには、佐倉市民カレッジ運営委員会を設置している。委員会は佐倉市公民館運営審議会委員、佐倉市民カレッジ卒業生、識見を有する人等によって構成している。

また、運営委員会はカレッジの運営や学習内容の方針、学生の進級などについて審議する。

・佐倉市民カレッジ運営委員会委員

	役 職	人数	氏 名
1	佐倉市教育委員会教育長	1	葛西 広子
2	佐倉市公民館運営審議会委員	1	高比良 直美
3	佐倉市民カレッジ卒業生代表	3	白石 由美子 海保 豪 田中 郁三
4	識見を有する人	4	遠山 正博 越沢 七子 内田 正恵 高橋 義和

平成22年4月1日現在

5. 佐倉市民カレッジの学習内容

(1) 「であい課程」の学習

カレッジの学習期間は4年間であるが、その前半の2年間は「であい課程」という。主に一般教養として、佐倉の歴史、健康、家庭、生きがい、法律、環境、市政、福祉、経済、仲間づくり等の広い分野を学ぶ。

また、「であい課程」では、今までの生活になかった自分とであい、仲間とであい、地域にであう中で、新たな生きがいを見つけることが学習のねらいとなっている。

「であい課程」2年間の学習日数は70日程度で、約140単位に及ぶ。その学習形態は講義形式のほか、話し合い、身近な公共施設などについて学ぶ市内めぐり、いくつかのグループに分かれ、テーマを設定してその内容について討議し、代表者が発表するグループ発表、また個人発表、健康運動などの実習などと様々である。このほか、学生が自ら考え、自己責任において行う地域活動の自己申告取得単位制度を設けている。

「であい課程」1年では、「私の生きがい」をどのようなものに求めているか、何が生きがいになっているか等自分の生きがいについて考え、お互いに発表し合い相互理解を深め、文集「私の生きがい」にまとめる課題がある。2年の、「市政を学ぶ」の学習テーマでは、実際に市政に携わっている市役所の職員等を講師として招き、市民公益活動の推進、基本計画と財政、環境と環境保全、福祉と健康、教育施策「佐倉学」等について学習する。それをもとに、個々に自分の考えるまちづくり構想をもち、各グループに分かれて実践活動を行い、その成果を「まちづくり実践報告会」で発表した。一連の学習の過程で、個々に市政についての理解を深めるのが大きなねらいである。

(2) 「専攻課程」の学習

3年生からの「専攻課程」では、講義と実践をとおして、卒業後も地域で生き生きと活動ができるようになることを目標として設置している。

また、他コース、他学年の講義を聴く聴講制度、さらに地域活動をすることで単位を取得する自己申告取得単位制度を設け、学生が自主的に学習できる体制を整えている。

「専攻課程」には4つのコースを設けている。学習日数は2年間で40日程度、約80単位に及ぶ。コースの名称は「あったか福祉コース」「ふるさと歴史コース」「さわやか情報コース」「ゆっくり元気コース」である。

「あったか福祉コース」

「あったか福祉コース」では、現代的課題となっている介護を通して福祉活動を考えていく時間とし、3年生では一步専門的な理論・技術を習得し、制度への理解を深め、介護を生活に身近な面からとらえ総合的視点で学習するために、3級ヘルパー養成プログラムを活用した学習をした。介護制度を理解することにより、利用者としての制度活用を図り、その結果サービスの質の向上に寄与する。

4年生では「他を認める」「話を聞く」「話をする」という、人と人の交流の基本を学び・経験することは、人が生活し地域社会を構成していく中で必要な「コミュニティ」形成の原点を考え・学んでいくことにつながり、カレッジ学習の基本である「地域づくり」を根本から学んでいくことにつながると考え、「傾聴」をテーマとした学習に取り組んだ。

また、学習したことを他に伝え・教えることで「学び」を一層深めていく時間として「学び合い学習」を行った。

「ふるさと歴史コース」

「ふるさと歴史コース」では、郷土佐倉の身近な偉人・先覚者や、歴史的町並み、またその時代にいたる変遷、背景について学び、郷土佐倉を愛する心を育てていく。

その内容は講義形式の授業を受けるだけでなく、自主的にテーマを設定して研究レポートを作成し、発表する主体的な学習を行っており、さらに、今後の地域活動につながるよう、他コースに佐倉の史跡

を案内して教えるという「学び合い学習」を行っている。

現在、卒業生による「歴史ボランティア」グループが結成されており、歴史コースでの史跡散策などの指導や学習補助をボランティアで行っている。

「さわやか情報コース」

「さわやか情報コース」では、デジタルデバイスと言われる情報格差を埋めると同時に、デジタル技術を使用した情報発信を学ぶことで地域の情報の共有化を進めることを目的として、様々な学習を行っている。

佐倉市の情報施策や、情報化社会一般の現状についての講義を聴くほか、情報を伝達する機器を利用して、自主的に地域活動ができるようになるために、3年生では基礎からのパソコン実習、「市民カレッジ情報紙」の作成、ホームページの作成。4年生ではパソコンの学習成果を活かしたイベントの企画・実施や、ビデオ・デジカメ撮影実習を行っている。また、地域活動における名簿作り。会計資料作成に役立つように、表計算ソフトの講義も行っている。また学習日以外の、パソコン自主学習も盛んである。

そのほか、佐倉市の情報ネットワークの拠点である広域高速ネット296を見学し、高度情報化しつつある地域の現状についての理解を深める学習も行う。

「ゆっくり元気コース」

「ゆっくり元気コース」では、自分の健康管理を自分で行うために必要な知識の習得を講義・実習とおして行う。

3年生では「歩くこと」を健康づくりの基本と考え、ウォークラリーのコースを作成し、作成されたコースが市民カレッジや地域の行事に活用されることにより市民カレッジ生の地域参画が期待される。そのほか、生活習慣病（成人病）に対する理解と予防、地域ぐるみの健康づくりなどについて学ぶ。さらに、リズム体操や太極拳、ヨガなどの実習をおして、自分に合った健康づくりを発見する。

4年生では、今までの主体的な学習の過程や成果を実践活動を通して、健康の維持と地域活動への導入を図る。具体的には、NPO、協会での実践活動を通して地域での活動を学ぶ。また、各種スポーツイベントに参加し、多様な健康づくり、レクリエーション等への理解を深めるとともに事業の企画運営を考察する。そのほか、健康づくりに関する今後の自分たちの活動について話し合う学習も行っている。

「専攻課程」の学習のまとめとして、それぞれのコースで学んだ事を伝え合う「学び合い学習」を今年度より行った。また「学んだことを活かす」というテーマでそれぞれのコース内で個人発表や話し合いを行い、そして、各コースの代表者による意見発表が行われた。

カレッジでの学習成果や、現在自分が行っている地域活動を紹介する中で、今後の自分の高齢者としての生き方について、長年蓄積した豊かな知識と経験から意見を発表する。それをいかに実践していくかが、カレッジを卒業してからの課題となる。

6. 佐倉市民カレッジの学習の特色

カレッジでは、学習の質を高め、より専門的な学習を行っていくために、他施設と連携を取りながら学習を展開する。特別養護老人ホーム、広域高速ネット296、武家屋敷、東京情報大学などと連携して学習を進める。また、これらを含めた平成21年度の主な校外学習は、以下のとおりである。

1年市内めぐり

6月8日、6月15日にクラス別にそれぞれ実施し、酒々井リサイクル文化センター、しすいハーブガーデン、直弥公園など市内の様々な施設を見学してまわり、佐倉市について理解を深めた。

専攻課程各コースの校外学習

3学年	5月27日	歴史	佐倉の史跡散策
	6月24日	情報	東京情報大学見学と講義

	6月17日	元気	ウォークラリーとニュースポーツ
	7月8日	歴史	志津の史跡散策
	9月8日	元気	順天堂大学1日体験授業
	9月30日	福祉	国際福祉機器展見学
	9月30日	歴史	大佐倉の史跡散策と自然観察
	10月7日	歴史	臼井の史跡散策
	10月21日	情報	広域高速ネット296スタジオ見学
	10月21日	歴史	成田山の歴史を学ぶ
	11月18日	元気	ウォークラリーコースを作りみんなで歩く
	1月27日	福祉	特別養護老人ホーム「白翠園」見学
4学年	5月26日	歴史	弥富の史跡散策
	6月23日	歴史	佐倉連隊の時代を歩く
	7月14日	歴史	佐原のまちづくりから学ぶ
	9月8日	元気	順天堂大学1日体験授業
	9月22日	4コース合同	草笛の丘で自然観察と陶芸
	9月29日	情報	最先端の科学技術に触れてみよう(日本科学未来館)
	11月24日	歴史	これからの博物館に必要なこと・歴博を楽しむ
	12月1日	福祉	佐倉ホワイエでの体験学習

7. 平成22年度の主な行事

(1) 始業式・入学式

5月15日、始業式に引き続き第19回入学式が行われ、100人の新入生が晴れの日を迎えた。

佐倉市民カレッジ総長の蕨和雄市長は「学習過程の中で、佐倉の歴史や自然、文化など、地域について学ぶとともに、環境や福祉、健康など社会的な課題となっている分野についても多くの知識を習得し、そして、多くの仲間と出会い、新たな生きがいを見つけていただきたい」との祝辞をいただいた。続いて、在校生を代表して歓迎の言葉があり、これを受けて新入生100名から代表して入学の言葉があった。

(2) 第15回スポーツフェスティバル

第15回スポーツフェスティバルは、市民体育館を会場に10月15日(金)に、クラスや学年を超えた新たな仲間づくりと健康づくりを目標としてカレッジ生全員により盛大に実施した。

種目は、ボール送り、スプーンレース、綱引き、ダンス、風船割り、玉入れ等があり、実行委員会を中心に手作り運動会となった。

(3) 文化祭

11月9日から11月14日にわたり、カレッジ生による文化祭を中央公民館大ホールを主な会場として実施した。今年は卒業生にグループ活動発表(パネル展示・イベント)に参加してもらい、より多くの人と新たな交流と親睦を深めた。出品作品は、絵画・書道・手工芸・洋裁・和裁・盆栽と多岐の分野にわたり合計296点の出品があり、それぞれに万感の思いが込められた力作揃いであった。

最終日には舞台発表の部を開き、練習の成果を発表し、たのしい有意義なひとときを過ごした。

(4) 「まちづくり実践報告会」(2年)

2学年は、私たちの考えるまちづくりについて、行動のための具体策を話し合い「まちづくり実践報告会」を実施した。この学習は、カレッジ生個々の市政に対する学習の取り組みを重視する形を取り、

市政の学習をもとに自分ならこのようなビジョンを持つと個々に考えをまとめ、その後に課題意識を同じくする仲間グループ（課題部門別）を形成し、各部門別に調査研究、討議を重ねた内容を実践し、それらの実践活動を、平成23年1月28日に市長を迎えて、1・2年合同の学習形態で、各部門の代表者により発表した。

その発表内容は、「城址公園及び大手門通りの環境美化活動」「世代間いきいき交流」「ステキな町絵」「歴史民俗博物館と川村美術館から城下町通りへ」「史跡散策マップづくり」「畔田谷津の自然を守り、後世へ引継ごう」の6点であった。

（5）修了式・卒業式

平成23年2月19日に修了式、続いて卒業式を行った。

皆勤者7名を含む86名が、今後の活躍を胸に秘めながら卒業証書を手にした。

蕨総長は「幅広い分野を学習し、地域活動を実践してこられました卒業生の皆様には、今後、まちづくりの主役としての役割が期待されております。一期一会を大切にし、縁あって出会った多くの仲間と共に力を合わせ、日々充実した思いを持ち、今後益々ご活躍してください。」との言葉を述べられた。

卒業生を代表して情報コース中島みつこさんが卒業の決意を述べ、通い続けた学舎を巣立った。

8．佐倉市民カレッジ生の課外活動

カレッジ生は自主的にサークルを結成し、学習日以外にも積極的に活動している。これらのサークルに対し、公民館では活動の場を提供している。

日頃の学習とは異なり、趣味を深める活動や地域社会へ貢献していくための活動などそれぞれに様々な活動を行っている。中でも、園芸サークルは、異学年や卒業生と交流を深めつつ、公民館周辺の花壇の管理、環境美化活動をボランティアで行っており、四季折々の花壇や玄関スロープの花々が来館者の目を楽しませている。

5 . 広報・展示事業

広報事業

公民館だより

- ねらい 中央公民館主催事業や中央公民館の使用申込みについてなどを紹介する。
- 発行回数 年1回
- 発行部数 500部
- 配布方法 各公民館、図書館、コミュニティセンター
- 内 容 佐倉市民カレッジ であい課程・専攻課程の概要、文化祭、スポーツフェスティバル
まちづくり実践報告会、サークル活動 他
- 展 望 佐倉市の広報紙と連携をとりながら、幅広い紙面づくりに心がけたい。

「なかま」

- ねらい 市民の手による、市民の「心の交流の場」づくりをめざします。
- 発 行 年12回（毎月1回）
- 発行部数 毎月1,400部（年間1,400部×12ヵ月=16,800部）
- 配布方法 市内公民館・図書館・老人福祉センター・佐倉一里塚・市内各駅等で配布。
また、編集委員による配布や市民ハイキング参加者への配付も行っています。
- 編集方法 佐倉市民カレッジ生とその卒業生からなるボランティア編集委員18名が編集会議を毎月2回開催しています。
- 編集会議では、原稿の内容上の個々の事項についての検討とその処置、校正・割付けなどの編集作業と、年間計画やこれからの方向性などについて話し合いを行います。
- また平成17年度からは佐倉市民カレッジ情報コース卒業生がボランティアで版下作成を行っています。
- 内 容 A4版4ページの体裁で、1面は市長及び編集委員の原稿、2・3面は市内在住の市民の方から頂いた投稿文を掲載しています。4面は中央公民館の主催事業や公民館からのお知らせ、コラム的なさくら道、編集委員によるあとがきを掲載しています。
- 平成20年6月には編集会議が、日本善行会から特別表彰善行賞を受賞しました。
- 「なかま」は毎月発行されておりますが、平成22年2月には創刊から数えて400号となりました。
- なお、平成22年度の1面から3面の題と投稿者は次のとおり。

「なかま」掲載記事

発行年月	号数	主 内 容
平成22年 4月	402号	落語を聴こう（編集委員 永見 一） 佐倉城址公園の桜案内（高木千枝子） 再会（坪井栄子） テリア君（渡邊麻美） 上野公園（矢島とも）
5月	403号	元禄地震（編集委員 金井義彰） 徳川の埋蔵金について（今井信幸） あやとり（徳武 寛） なくそう子どもの虐待（廣吉正毅） ディサービス「ちとせ」で（加瀬清子）

6月	404号	料理同好会「悠遊くらぶ」(編集委員 池田圭三) 上海の大衆食堂で(岡本文隆) プロ野球開幕に向けて(石原茂樹) 軍艦島(林 久子) 牛の如く読む(村田長保)
7月	405号	小名木川(編集委員 横山詔正) 何が幸せ?(塚原謙二) 縁(市村紀子) ピアノ(佐藤道惇) 土用のうなぎ(宮本定雄)
8月	406号	菜園(編集委員 原田和行) 遠い夏の日の記憶(岩淵幸雄) 納涼怪談噺(永見 一) 佐倉っ子を見守ろう(秋葉恵子) 海上の奇跡(清水久四郎)
9月	407号	『佐倉こどもかるた』完成へ(編集委員 坪井栄子) 佐倉市のストリートオルガン(松井弥彦) 塩に想う(横山勇典) 猫殿に完敗(鈴木伶子) 感じるままに思いつくままに(柴田伸一)
10月	408号	吾輩はひよどり(編集委員 田村孝則) 日本縦断・鉄道の旅(都築羊子) 小篠塚城址(斎藤 雄) 黄昏の青春(吉井 弘) 稲葉家の足跡を訪ねて(赤川匡宏)
11月	409号	浅草の思い出(編集委員 大蔵康次) 草津の湯(渡邊麻美) 夢見る星空(宮本定雄) 感じるままに思いつくままに(柴田伸一) 河童の川流れ?(村田長保)
12月	410号	ゴッホ展を観て(編集委員 田中 勲) 我が家にも(藤村俊一) ブランコ(林 久子) 摘草(佐藤道惇) 人間距離(塚原謙二)
平成23年 1月	411号	新春に寄せて(佐倉市長 藤和雄) 七草粥に思う(清澤瞳子) 生まれること産むこと(奈良扶規子) 藤沢周平を楽しむ(江尻秀夫) 仕事(芦野 学)
2月	412号	タコのバウル君(編集委員 坂本初男) 「佐倉むらさきの会」との出会い(折田純子) 要約筆記のこと(北澤 誠) 犬猫の糞尿、お断り(奈良睦夫) 高宕山(長谷山 巖)
3月	413号	横須賀歴史探訪(編集委員 六角 学) 私のマラソン人生「夢は叶うよ」(白石義孝) 日本ロマンチック街道の旅(菅野良彦) たかが、されど(矢島とも) 「故郷の駅佐倉」の思い出(若名さだ子)

6 . 団体育成事業

定期利用グループ懇談会

開設趣旨 中央公民館を利用しているグループ・サークルに対し、公民館の利用方法について説明し、利用にあたっての協力を求め、各グループがお互いに快適な学習活動ができるような意識づけをする。また、各グループの情報交換や公民館への要望を聞く場とし、同時にグループ・サークル間の懇談を図る。

開催期日 平成22年4月19日(月) 午前10時~午前11時30分

- 対 象 中央公民館利用グループ・サークル 195 団体
- 内 容 1) グループ活動への期待
2) 平成22年度中央公民館利用の手引き
3) 利用にあたっての注意事項
4) 「子どもの居場所作り」について
5) その他

調理室利用グループによる調理室点検

開設趣旨 調理室を定期利用しているグループに対し、お互いの交流の機会を作ると共に、調理室の効率的な活用と適正な運営を図る。

開催期日 平成22年 6月14日(月) 午前10時～11時30分
平成22年 12月13日(月) 午前10時～11時30分

対 象 調理室を定期利用しているグループ
14 団体 27 名 16 団体 32 名

- 内 容 1) 調理室の清掃
2) 公民館備品の整理・点検
3) グループ備品の整理
4) グループ間の懇談
5) 公民館への要望

佐倉地区子ども会育成会連絡協議会

佐倉地区子連は、佐倉地区内の子ども会及び子ども会を取り巻く諸関係機関団体との連絡・調整を図り、各単位子ども会の健全な発展に寄与することを目的として結成された。会の運営は、役員が中心となっており、総会・役員会・各事業などを実施している。中央公民館では、事務局としての役割、子ども会安全会等の申込みの受付、佐倉市子ども会育成連盟との連絡、備品の貸与等を行っている。子どもの成長にとって、地域における子ども会の役割は、重要性はと思われるので、これからも活動を支援していきたい。

単位子ども会数及び会員数

単位子ども会 8 団体
会 員 数 402 名(昨年より13名増加)
幼 児 36 名(昨年より 2名増加)
小学生 304 名(昨年より 9名増加)
育成者 62 名(昨年より 2名増加)

主な事業

実施月日	事業	内 容	会 場
H22. 4. 2(水)	平成22年度総会	21年度事業報告 21年度決算報告 22年度事業計画 22年度予算案	中央公民館 学習室1
H22. 5. 8(土)	佐倉市子ども会育成連盟 定期総会	22年度総会	中央公民館 学習室3

H22. 5.14 (水)	第1回役員会	育成者研修について 今後の日程について	中央公民館 会議室
H22. 5.28 (金)	育成者研修会	備品活用について 講師：本部三枝子さん	中央公民館 研修室2
H22. 6. 2 (水)	佐倉市子ども会育成連盟 育成者講習会	子ども会活動・房総かるた 講師：吉村真理子さん	中央公民館 大ホール
H22. 6.30 (水)	育成者研修会	車内研修・施設見学 講師：本部三枝子さん	千葉市科学館
H22. 9.15 (水)	第2回役員会	中央交流フェスティバル・佐倉こどもかるた大会について	中央公民館 会議室
H22.10.18 (月)	佐倉市子ども会育成連盟 第1回役員会	中央交流フェスティバル に向けて	市役所1号館6階 中会議室
H22.11.27 (土)	第1回佐倉こどもかるた大会	佐倉こどもかるた参加者 小学生37名幼児8名育成 者21名ボランティア20 名	中央公民館 大ホール
H22.12.18 (土)	佐倉市子ども会育成連盟 中央交流フェスティバル	クリスマスコンサート	佐倉市民音楽ホール
H23. 3. 9 (水)	第3回役員会	22年度活動報告及び23 年度に向けて	中央公民館 会議室
H23. 3.19 (土)	佐倉市子ども会育成連盟第 2回役員会	22年度活動報告及び23 年度に向けて	市役所2号館 会議室